



ボランタリーネイバーズが実施した「中小企業診断士による NPO 支援報告会」より

NPO×中小企業診断士～新たな出会いから広がる可能性～

渡邊 弥里 (ボランタリーネイバーズ理事)

- 経営コンサルタントの国家資格である「中小企業診断士」。その資格を維持するためには、5年間で30日間相当の中小企業への診断実務を行うことが必要です。2019年7月31日から、その対象がNPO法人にも拡大されました。
- ボランタリーネイバーズでは、中小企業診断士がNPOを支援する環境作りを進め、2020年11月には、NPOと中小企業診断士がお互いの事業・活動に対する理解を深める、キックオフミーティングを開催しました。
- その後、2021年1月からプロトタイプ事業としてNPO法人アダージョちくさの支援を開始し、2021年5月に第一段階の区切りがついたため、5ヶ月間の取り組みと成果をお伝えする報告会を、10月30日に名古屋市市民活動推進センター様と(公社)愛知県中小企業診断士協会様にご共催をいただいて開催しました。

プロトタイプ事業での取り組み

- アダージョちくさは、精神障害を持つ方やその家族の人々を対象に、就労継続支援B型事業所や作業所型地域活動支援センターを運営されているNPO法人です。「Panasonic NPO/NGOサポートファンド for SDGs」の助成金を受けて組織基盤強化に取り組まれる予定だったため、組織課題の分析・対策の検討を中小企業診断士(以下「診断士」といいます。)により行いました。
- 診断士のメンバーは「あいち企業内診断士の会※」に所属する企業内診断士5名がチームを組んで支援をしました。支援に入る前には、NPOの制度やNPO会計に関する勉強会を開催して理解を深めました。
- まずは、理事長・副理事長にヒアリングを行い、組織基盤強化に対する考え・思いを伺うとともに、「組織・人」にフォーカスした分析・提案をする方針を確認しました。
- 次に、役・職員へのアンケート項目やヒアリング項目の案を診断士チームで作成し、理事長・副理事長と調査内容を擦り合わせ、全役員・職員にアンケート調査とヒアリング調査を行いました。
- ヒアリングでは、「仕事をする上で大切にしていること」や「今後、アダージョちくさでチャレンジしたいこと」、「課題に感じていること」などをお伺いしました。
- その内容を診断士チームが分析し、組織運営における課題と、それを解決するための対策案を検討し、アダージョちくさの総会において報告をしました。



※企業内診断士とは、コンサルティングを生業としている診断士(プロコン)

に対して、企業に勤めている診断士のことをいいます。「あいち企業内診断士の会」は(公社)愛知県中小企業診断士協会が公認する、企業内診断士がスキルアップを図るための研究会です。

どのような成果があったのか？それぞれの立場から

■10月30日の報告会では、「支援を受けたNPO」と「支援した中小企業診断士」、「コーディネートした中間支援NPO」の3者が、それぞれの立場から、プロトタイプ事業の成果や診断士がNPO支援を行うことのメリットをお伺いしました。



【診断士に支援を受けてみて（アダージョちくさ理事長 下園さん）】

- ・第三者がヒアリングをしてくれたので素直に意見を言えた。内部だけの視点では俯瞰的に捉えることや業務をしながら時間を作ることが難しい、自分たちだけではできなかったことができた。
- ・福祉専門ではない外部の方が関わることで大きな変化があるのではないかと期待感がある。良い方向への改善ができるのではないかと期待から、職員からも「自分ができることがあれば協力したい」という声があり、モチベーションアップにつながった。
- ・各自の抱える悩みや問題をどうやったら組織全体の理念や想いに照らし合わせて解決・実現できるか、という視点で寄り添ってもらえた。赤字部門カットなど経営効率的視点ではなく、活動目的や福祉的視点など我々の想いを尊重しつつ客観的な意見をもらった。
- ・職員の負担を懸念していたが、残業の増加は10時間/月ほどで、それ以上の成果があった。

【NPOの支援をしてみても（あいち企業内診断士の会 加藤さん、室井さん）】

- ・企業では、基本的に「トップダウン」で物事が進む。NPO法人は水平的な要素が多い。トップの思いだけではなく、職員の方の思いも大事にしながら進めていくように気をつけた。
- ・ヒアリングを通して、「利用者のために」という職員の方の熱い思いを感じ、それに応えられるように提案を考えた。熱い思いを受けて自身の仕事に対するモチベーションアップにもなった。

【コーディネートしてみても（ボランティアネイバーズ理事長 中尾さん）】

- ・支援と聞くと、「できる人」が「できない人」を指導するイメージだったが、違った印象を受けた。
- ・理事長、副理事長から改善に対する思いを聞いて、方向性を確認しながら、役・職員へのヒアリングで思いを集約していく、支援する、されるのではない、一緒に作っていく関わり方と感じた。

実際にやってみて分かったこと

- 診断士のヒアリングや対策の提案の仕方からは、一発逆転の解決策を提示するというよりも、会話のキャッチボールをする中で、寄り添いながら色々な提案をしていく印象を受けました。
- この取り組みをはじめた当初は、診断士が持つスキルを活かしてNPOをサポートする、一方的な支援をイメージしていましたが、「支援する側」→「支援される側」という関係ではなく、相互に得るものがある「共に歩んでいくパートナー」の関係性の方が、適切ではないかと感じました。
- 現在、アダージョちくさのサポートのほか、別のNPO法人でも診断士がSNSを使った広報の強化に取り組んでいます。また、診断士側にもNPO支援に関心を持つグループが立ち上がるなど広がりを見せています。引き続き、ボランティアネイバーズでは、この取り組みを進めていきます。

★ボランティアネイバーズでは、中間支援組織・NPO向けの研修を、テーマ・回数などご相談に応じながら実施しています。お気軽にご相談ください★